

《技術報告》

Patlak Plot 法を用いた脳血流量測定の技術的検討

Radionuclide Angiography のデータ収集時における
ガンマカメラ Positioning の工夫

高木 昭浩* 岡田 和弘* 浦田 譲治* 米原 敏郎**
水田 吉彦***

* 滋生会熊本病院画像診断センター

** 同 脳卒中センター

*** 第一ラジオアイソトープ研究所

要旨 局所脳血流量を非観血的に測定する松田らの方法は、Radionuclide Angiography (RNA) から得られる大動脈弓部の時間放射能曲線を入力関数パラメータとして扱っている。原法では RNA を胸部正面からデータ収集しているが、当院では正面収集にて大動脈弓部の同定しづらい症例を経験した。そこで、本検討において RNA を胸部左前斜位 25° からデータ収集したところ、大動脈弓部の同定精度に向上が認められた。正面または左前斜位いずれの方向からデータ収集を行っても、得られる測定値に有意な差異は生じなかった。今回われわれの検討した方法は、測定手技の工夫として有用性が示唆される。

(核医学 36: 139-144, 1999)